

週報

令和 7 年 3 月 28 日

2024～2025年度 No.25

2024-25年度 国際ロータリーのテーマ

Rotary



国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック



ロータリーの
マジック

プログラム

S A A 西上裕一郎君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆食 事 懇 談

☆会長の時間

☆幹 事 報 告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部 内 卓 話

「水と衛生月間にちなんで」

松岡 孝博君

☆点 鐘

現 在 会 員				3 0 名			前々回の欠席者（3/7）					11 名		
本 日	出席 1 3 名		欠席 1 2 名				免除(a)欠席 3 名				出席率 5 2 . 0 0 %			
							免除(b)欠席 2 名							
前 々 回	出席 1 5 名		MU 0 名				免除(a)MU 3 名				修 正 出席率 5 7 . 6 9 %			
							免除(b)MU 1 名							
月 別 出席率%	7		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
	本年度		78.04	71.13	69.88	65.22	57.70	64.55	52.95	65.86	55.79			
	前年度		77.26	83.66	87.66	84.78	89.40	90.22	92.55	95.45	88.38	88.46	89.64	75.41

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分～13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 片 山 雅 文
副 会 長 柳 田 靖 夫
幹 事 有 川 真 史
雑誌・会報委員長 市 村 篤

会長の時間

会長 片山 雅文君

皆さんこんにちは。

さて、昨年度に執り行われました創立60周年記念植樹で不足分の新しい苗木が準備でき、先日3月22日（土）鬼岳と白良ヶ浜万葉公園に植えられました。

白良ヶ浜万葉公園では、樋口造園さんをはじめ参加された会員の皆様、また急遽ご参加くださいました出口市長、計15名で苗木を植えることが無事出来ました。参加くださいました会員の皆様、ご家族様ありがとうございました。

今日は、今回植えた「桜」について少し話したいと思います。

復興の花を咲かせたい、桜の新品種「玉夢桜」開発。

東日本大震災の津波で、多大な被害を受けた宮城県農業高校。同校の生徒たちは、まちの復興の力になろうと様々な活動を進めている。

科学部の部員たちは、津波にあった沿岸部で復興の花を咲かせたいとの思いから、2012年から塩害に強い桜の新品種開発に挑戦。桜の組織培養に詳しい顧問の教諭の指導の元、幾通りもの人工交配を実施。5年後、その中の1本が花を咲かせた。オオシマザクラと塩釜神社の「手弱女（たおやめ）」を交配させたもので、花びらは淡いピンクの半八重咲きで、芳しい香りが特徴。ソメイヨシノより10日ほど遅い4月中下旬に開花する。生徒たちの調査で、塩害に強く、他品種に比べ二酸化炭素の吸収量が多いなど、環境浄化力に優れていることがわかった。

2019年4月、岩沼市玉浦西地区で開かれた花見会で披露すると、住民から玉浦西にちなんだ命名を要望され、生徒たちは地名と丸みを帯びた花の形から「玉」を、未来に思いをはせようとの願いを込めて「夢」を選び、「玉夢桜（たまゆめざくら）」と名付けた。

2020年8月、「玉夢桜」は公益財団法人「日本花の会」から新品種の認定を受けた。

創立60周年記念植樹

令和7年3月22日（土）鬼岳・白良ヶ浜万葉公園

創立60周年記念植樹は昨年度執り行われましたが、この度、不足分の新しい苗木の準備が整い、植樹が行なわれました。
（写真は白良ヶ浜万葉公園にて）



幹事報告

幹事 有川 真史君

【地区関係】

1. ガバナー事務所より「大船渡大規模山林火災被害支援のお願い」が届いております。
2. ガバナー事務所より「ガバナーエレクト（2025-26）決定のお知らせ」が届いております。唐津RCの辻ガバナーエレクト急死のため、石坂ガバナーが続投されるそうです。
3. ガバナー事務所より「会長エレクト・次期幹事研修セミナー開催」のご案内が届いております。
4. 長崎出島ロータリークラブより「例会変更のお知らせ」と長崎北東ロータリークラブより「例会休会のお知らせ」が届いております。

委員会報告

出席報告

- ◆ 3月28日（免除(a)欠席者）
植松 郁雄君 中村 博義君 橋本 武敏君
- ◆ 3月28日（免除(b)欠席者）
清瀧 誠司君 吉田 泰之君
- ◆ 3月28日欠席者
神之浦文彦君 小畑 和男君 才津 喜彦君
坂井 成光君 平村 和弘君 柳田 靖夫君
山口 裕之君 宮脇 秀至君 森 正明君
市村 篤史君 野崎 薫君 村田 修君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇中村 栄治君 3月16日のスマイル会優勝しました。
- ◇松岡 孝博君 本日、卓話をさせていただきます。ご清聴よろしくお願いします。
- ◇片山 雅文君 60周年記念植樹は無事終了しました。ご協力ありがとうございました。
- ◇有川 真史君 //
- ◇山下 実君 //

- ◇山下 克己君 //
- ◇西上裕一郎君 //
- ◇浅野 謙君 //
- ◇戸田 博之君 松岡孝博さん、本日の卓話よろしく申し上げます。
- ◇張本 民雄君 //
- ◇山里 一郎君 //
- ◇寺澤 信義君 //
- ◇井上 貴之君 //

合計 14,000円

通算合計 429,000円

部内卓話

「水と衛生月間にちなんで」

松岡 孝博君



人類が、この地球上で暮らし続けていくために2030年までに達成すべき目標SDGs。

SDGs 6に『安全な水とトイレを世界中に』という目標が掲げられています。

私たちが暮らす五島には2次離島が多く、中には有人島があります。本日は、離島で暮らす人々の水事情について少しお話ししたいと思います。

かつて、長崎大学教育学部の竹内清文氏、田尻宏太郎氏という『離島における水資源開発』に携わった研究者がおられました。その方々が残した文献を引用させていただきます。

離島の中でもとりわけ小さな島には川らしい川はなく、河川から水を得る事は極めて難しい。また、地下水についても海水の混入が懸念され、飲料水を地下水に頼ることも難しい島が多い。したがって小島においては、天水（雨水）に依存するところが多かったが、戦後、海水の淡水化技術が発達するにつれ、それを実用化するところが増加した。

と、あります。

現在、五島の2次離島の黄島地区は、21世帯、総人口26人の暮らす島です。

昭和61年に『海水淡化プラント設置』により海水を真水に変え、主に飲料水として活用できるようになりました。黄島の海水淡化プラントは、太陽光発電で生成した電気を利用し、電気透析法という方式で水を生成しています。この方式によれば、経済的基盤の弱い地区でもきれいな水を得ることができるそうです。

私共、松岡建設は、かつて人口100人、世帯数80世帯ほどが暮らしていた黄島の小学校・教員住宅・公民館・住民センター等の新築工事、また天水を貯める為の貯水槽造り、その後、海水淡化プラント工事の為の事務所改修工事に携わった経緯があり、黄島の水事情を知った次第です。

次に、福江島の福江港から南へ約15kmのところに浮かぶ、東京ディズニーランド程の面積である2次離島、赤島についてお話しします。

赤島では天水が生活用水です。

1人1日当り使用水量の平均値は60L。これは、一般的な街の1人1日当りの平均使用水量219Lと比較すると1/4程度になります。WHOによると、ほとんどの人の基本的なニーズが満たされ、健康上の懸念が生じないようにするには1人1日当り50～100Lの生活用水が必要とされます。このことから、赤島では必要最小限の水で生活していることがわかります。

上記の現状を踏まえ、2017年から2019年の3年間、『五島列島赤島活性化プロジェクト』を立ち上げ、『雨水をためるメリット』の実証をされた方がおられます。

福井工業大学環境・食品化学科の笠井利浩教授です。その当時、赤島の人口は18人13世帯。

各家々に設置された貯水槽のほかに、図に示した雨水を水源とする48㎡の集雨面、貯水タンク2基、浄水装置からなる給水装置を設置しました。



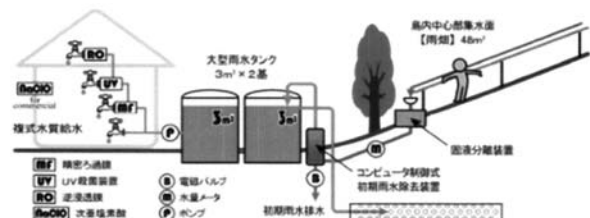
雨の集水面「雨畑」



雨水タンク（6㎡：3㎡×2基）



あかしまの家の屋外蛇口と屋内浄水装置(RO)



雨水を水源とする給水システムの概略図

このシステムは、効率よく雨水から飲用レベルの水を低コストで供給する事を目的としたものです。このプロジェクトを始動するに当たり赤島の島民に聞き取り調査を行ったところ、赤島が強い水ストレス下であり、水質面でも不安を感じていることがわかりました。しかし、島の雨水を検査した結果、大腸菌もおらず一般細菌も普通の水道水と同様の基準でした。

雨水活用による日常的な水資源の研究や、活用方法についての研究に取り組んでいる笠井先生の『雨水を貯めるメリットについて』の見解をご紹介します。

日本では昔から雨水を利用してきたにも関わらず、今は一般家庭では全くと言っていいほど使われていません。私達には水道があるのに、どうして雨水を使わなければいけないのか、という意識があります。しかし、近年の豪雨や渇水の問題を考えると、雨水活用による水資源についてもっと考えてみてもいいのではないのでしょうか。雨水タンクは、トイレや水やりなどで利用する節水対策だけではなく、局地的な豪雨の

際に雨水をストックすることで床下浸水などを防ぐ洪水対策、渇水時の水不足対策、そして万が一の災害時に生活用水として利用できるなど、多くのメリットがあることがわかります。

最近の気候変動を考えると、万が一の災害はどこにでも起こり得ることです。

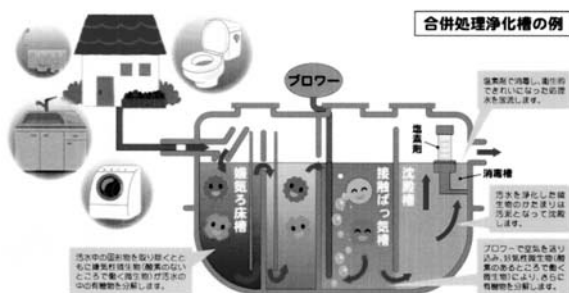
赤島プロジェクトに際し、松岡建設へスポンサーの依頼があり、島での人力による手作業の伝授、手作業に必要な資機材の収集運搬、タンクの運搬、炎天下で作業を行う学生の熱中症対策等を提供しました。

※引用・参考文献

笠井 利浩教授

『五島列島赤島活性化プロジェクト』

いつでも、安心して使用できるトイレは、私たちが衛生的な生活を送る上で、なくてはならない物の一つです。私たちが暮らす五島のトイレ事情についてお話ししたいと思います。



現在、日本中そして五島でもトイレは、衛生的な水洗トイレがほとんどです。

五島には下水道インフラはありませんが、生活の雑排水、し尿等の汚水は各施設、各家庭に設置された合併処理浄化槽で処理され、きれいな水となって海へ流れていく仕組みになっています。

では、ここで合併処理浄化槽の仕組みについてお話します。

発生した汚水は第一室へ流れ込み、増殖に酸素を必要としない嫌気性微生物（ケンキセイビセイブツ）の働きで有機物は嫌気処理されます。第二室でさらに約半分の有機物を除去。次の、接触ばっ気槽で、フロアから送られる空気で増殖する好気性微生物の働きにより、有機物をさらに分解・除去します。沈殿槽で浮遊物質を沈殿分離し、きれいな上澄水は最終槽の消毒層へ、そして沈殿物は再び嫌気ろ床槽第一室へ移流されます。消毒槽で塩素系消毒剤で消毒し放流します。

水と衛生について身近な五島の暮らしを例に話しましたが、雨水、海水、太陽光、微生物、どれも身近な自然界に存在する資源で、私たちの衛生的な生活が維持されていることに改めて気づかされました。時には脅威にもなり得る自然ですが、うまく活用し、感謝の気持ちをもって使わせ頂こうと思います。

このテーマを頂き、水や資源について考えることができました。

ありがとうございました。